

「生徒一人一人が大切にされる学校」

2月21日(水)の5校時に、「ジェンダー平等」について理解を深め、「人権」について考えることを目的に、全校道徳を行いました。前半は、養護教諭の堀之内先生が「**違いを認め合い、一人一人を大切に**」というテーマで、「くまのトーマスはおんなのこ」という絵本を使って、授業をしてくださいました。そのなかで、身体の性と心の性が一致していない人や違和感をもつ人(性的マイノリティー)が統計的には5~8%くらいいることが伝えられ、その人たちは悩んだり、つらい思いをしていることが紹介されました。そして、「**性のあり方は様々であり、人は等しく尊重される大切な存在であることから、差別につながるジェンダーは見直していくことが大切である**」とまとめてくださいました。続いて、私からは「一人一人が大切にされる学校を目指して」というテーマで以下のような話をしました。(抜粋)

▶今日は、先ほどの堀之内先生のお話を受けて、今後の敷島中学校の在り方、進み方(学校経営)について、私の想いを述べたいと思いますので聞いて下さい。▶学校とは、毎日の授業をはじめ、先生や友達、先輩や後輩といった多くの人との関わりを通して、生徒一人一人が「将来、自立してたくましく生きていくための学びの場であり、成長の場」であると考えています。▶そこで、私は本校の先生方に次の2つのことを常々お願いしています。一つ目は「一時間一時間の授業の準備をしっかり行い、わかる授業や、質の高い授業に努めること」、二つ目は「生徒や保護者の想いに寄り添った丁寧な指導を常に心がけ実践すること」です。この2つのことを徹底することで**目指すのは、「生徒一人一人が大切にされる学校」**です。▶そして、うれしいことに、本校の先生方は、この想いを受け入れてくれ、それぞれの役割分担のなかで、全力で生徒と向き合い、教育活動にあたってくれています。▶さらに、うれしいことに、この先生方の想いに応えるべく、多くの生徒が前向きに充実した学校生活を送っています。▶しかし、なかには人とのかかわりが苦手であったり、学校に登校できていない生徒もいます。そのような生徒に対しても、将来、自立してたくましく生きていけるように様々な支援を、SCや関係機関の方々のお力もお借りしながら、粘り強く取り組み、「誰一人取り残さない学校づくり」すなわち「生徒一人一人が大切にされる学校づくり」を今後も目指していきたいと思えます。▶「誰一人取り残さない」社会の実現は、持続可能な開発目標(SDGs)の基盤となる考え方であり、甲斐市もSDGsの取組を通して「持続可能で、誰一人取り残さない市」を目指しています。▶SDGsは17のゴールと169のターゲットからなっています。この17のゴールを実現するための根底となる考え方が「**ゴール5・ジェンダー平等を実現しよう**」だと言われています。▶この「ジェンダー」とは生物学的な性別ではなく、長い歴史のなかでつくられてきた「男らしさ」「女らしさ」のような社会的・文化的な性別のことを言います。▶先ほどの堀之内先生のお話の通り、つらい思いや苦しんでいる人がいます。**大切なことは「まちがいに気づいたら変えていく**」ことだと思います。▶本校でもジェンダー平等については、これまで性別でわけない名簿や整列等に取り組んできました。しかし、そのほかにも取り組むべき事はまだまだあります。今後、生徒会活動においても「これって、おかしいよな」という視点を大切にしたい取組を展開してくれることを強く望みます。▶そして、学校として、今回変えていく必要があると判断したことが「制服の問題」です。現在、敷島中では、校則で男子は学生服、女子はセーラー服となっています。これらを義務づけていて、個人による選択の余地はありません。また、温度調節・・・暑さ対策や防寒対策、動きやすさといった「利便性」は十分と言えるでしょうか?▶そこで、これを機に**取り組みたいのは「多様性や利便性を兼ね備えた制服」の導入**です。▶しかし、これは「簡単」な取組ではありません。だからこそ、次の世代に先送りするのではなく、ここにいるみんなで知恵を出し合い、しっかりとした準備をして、今、真正面から取り組むべきことであると考えています。幸い、この敷島中には、この難題に立ち向かえる生徒、職員、保護者が揃っています。▶甲斐市内の中学校5校でも、制服のジェンダーフリー化を令和7年度までに行っていくことを決定しました。本校では昨年12月の三者懇

談のときに、候補となるベースの制服を選ぶための投票を全校の生徒・保護者にさせていただきました。また、そのときに寄せられた意見を参考にさせていただきながら、今後、実際に制服を着用する可能性のある生徒のみなさんの声、そして経済的な負担をしていただく保護者の皆さまの考えを十分に反映する形で進めようと考えています。

▶寄せられた意見のなかには、12月にはブレザー、スラックスだけ展示しましたが、スカートタイプをつくり、選択できるようにしてほしいという意見がありました。なかにはスラックスなどを着用している女子生徒が、嫌な思いをしないように、完全移行してほしいとの意見もありました。▶そこで、本校では、本日の「全校道徳」をスタートに、生徒、保護者、教職員が「ジェンダー平等の実現」に真摯に向き合い、「一人一人が大切にされる学校」につなげるべく、「多様性や利便性を兼ね備えた制服」の導入に向けての検討を進めていきたいと思ひます。

▶なお、制服については、様々な考えがあったり、家庭の経済的負担を伴ったりすることから校内に検討委員会を立ち上げています。これからも委員会を中心に進めていきたいと思ひます。検討委員会のなかで話し合い、提案していきたいと思ひます。▶具体的には、男女ユニセックスデザインの「男女兼用型」、スカートやスラックスが選べる「組み合わせ型」の制服を令和7年度の新入生から導入する予定でいます。また令和10年度までの4年間を移行期間とし、新旧両方の着用を可能とします。▶みなさんにとっては、自分たちが直接着用しない制服への取組となるかも知れませんが、この取組を通して、全校生徒のみなさん一人一人が「未来の創り手」となり、敷島中がこれからさらに「一人一人が大切にされ、活気のある学校」となるよう一緒に考えてほしいと思ひます。

*後日、保護者への説明会を実施する予定です。生徒へのアンケートと感想をのせておきますので、ご覧ください。

【全校道徳・生徒の声】

〈賛成・やや賛成〉425名

○一人一人の意見が認められて、一人一人が大切にされる学校づくりがとてもよいと思った。○悩んでいる人がたくさんいると思うから ○今の制服が嫌だと思ひ人がいるので賛成です。○一人一人が着やすい制服を着て、一人一人が大切にされるのはよいことだと思ひから ○多様性を認めることで、さらに過ごしやすい学校になると思ひから ○全員が過ごしやすい学校にすることはとても大切だから ○ジェンダー平等が目指せるから ○嫌な思いをする人が少しでも減るといいなと思ひたら ○新しい制服を着ることによって変なうわさやいじめがおこることがないようにしてほしいから ○一人一人の人権が守られるから

〈やや反対〉2名

○制服はかえなくてよいと思ひたから ○おさがりをもらって着ている人が新しい制服の人たちに、移行期間にいろいろ言われそう。

〈反対〉2名

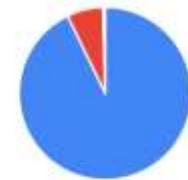
○おさがりがもらえなくなり、お金がかかる。○記載なし

【全校道徳の感想・思ひしたこと】

○この世の中には差別という言葉はいらないと思ひるので、ジェンダーについて理解しあいながら生活していきたいです。○いろいろなことを抱えている人がいるし、苦しんでいる人がいるならわかってあげたい。○ジェンダー平等は当たり前のことになっているので、敷島中でこのような取組をすることはいいことだと思ひます。○これから先の敷島中のことは3年生には直接関係がないかも知れないけれど、敷島中の未来のために考えていく必要があると思ひました。○東京の学校はこのような制服を導入している学校が多いのに、山梨県の学校は比較的少ないと思ひるので、敷島中が率先して導入すると聞いて、とてもうれしく思ひます。また、制服で悩んでいる子が私の周りに少なからずいるので早く変えてほしいと思ひていました。だからこそ、この授業が全校で行われてよかったと思ひます。

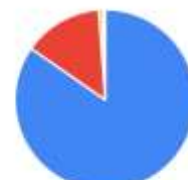
賛成・やや賛成・・・99.8%

学校が「一人一人が大切にされる学校」を目指すことについて



■ 賛成 ■ やや賛成 ■ やや反対 ■ 反対

「多様性と利便性を兼ね備えた制服」の導入について



■ 賛成 ■ やや賛成 ■ やや反対 ■ 反対

賛成・やや賛成・・・98.8%